

## 地域で取組む 生ごみ堆肥化



「亀さんの家」の皆さんが、生ごみ堆肥化に取組み始めた頃は、なかなか発酵温度が上がらず、腐敗したりと、苦勞したこともあったそうです。生ごみ堆肥化の難しいところは、一次処理の段階で腐らせないようにすることです。生ごみには栄養分や水分が多く、腐りやすいので、生ごみを投入するときにしっかりと水気を切ります。二次処理では水分調整をして、微生物の働きを活性化させます。

経験が物を言う生ごみ堆肥化。堆肥化の取組みから半年程して、順調に良質な堆肥がとれるようになったので、亀井さんたちは生ごみ堆肥を利用した野菜づくりに挑戦することになりました。



◀会員の皆さん。作業の合間の休憩時間は楽しい話で盛り上がります。

▼二次処理で行う切り返しの作業。切り返して水分を均等にし、まんべんなく酸素を取り込み、全体の発酵を促します。



この亀井さんたちの堆肥化の取組みには地域の人たちの協力がありません。生ごみ堆肥化は一人で取組むには困難な問題があります。一つは、二次処理での切り返しなどが、特に重労働なこととです。二つ目は、完熟した堆肥をつくるには、二次処理で温度を上げて高温発酵させるために、たくさんの量の一次処理したものが必要なことです。

現在、「亀さんの家」の正会員は23名、賛助会員（生ごみを堆肥化するための

一次処理をする会員）は約80名います。賛助会員の各家庭から一次処理したものを収集した後、正会員の皆さんが二次処理を行っています。そのほかには、地域の老人ホームから排出された生ごみを週一回、収集して処理します。

地域の人たちが生ごみの一次処理に協力してくれることで、より良質な堆肥をつくることができ、結果的に自分たちだけでなく、地域の生ごみを減量することにつながっているのです。

完熟堆肥

熟成

二次処理

収集



完成!

完熟した堆肥は湿り具合がよく、無臭または香ばしい香りがします。

堆肥の温度が自然に40℃くらいに下がったら、2ヶ月ほど置いておきます。



一次処理したものを、微生物の働きによって発酵分解します。60～75℃で発酵させることで、病原菌・大腸菌などを死滅させます。7～10日間に一度、切り返しを行い、これを4～5回繰り返します。

※切り返し…上写真参照

一次処理がケースに一杯になったら、作業場に持ち込んで二次処理に進みます。